

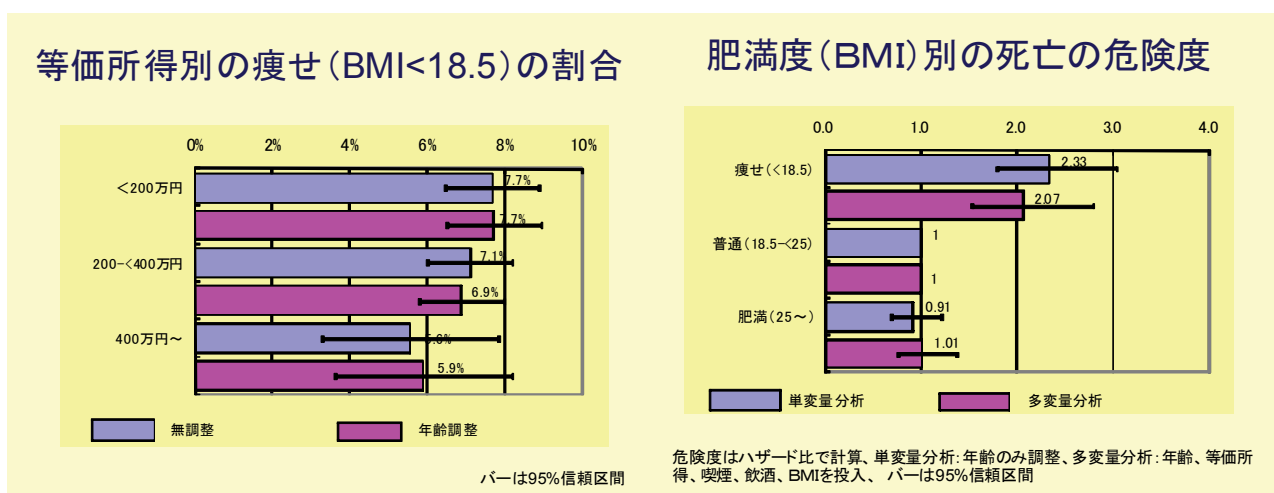
所得の低い男性高齢者は栄養が不足しており、 そのような高齢者は早く死亡する

<研究方法>

愛知県の5市町村で2003年に、健康な65歳以上の高齢者を対象に、アンケート調査を行った。その後3年間の死亡のデータを得た。この研究では男性に絞って、アンケート調査による、所得と痩せの関係を分析した。また、アンケート調査で聞いた身長と体重から肥満度（BMI）を計算した。そして、その肥満度別に、その後3年間の死亡の危険度を見た。

<研究結果>

痩せの割合は、高所得者で5.6%に対し、低所得者で7.7%であった。また、痩せている人は、普通の人に比べて約2倍、死亡しやすいという結果であった。低所得者では栄養の不足によって痩せとなり、死亡が増加する可能性が考えられた。肥満については、高齢者では死亡が増加することはなさそうであるという結果となった。



<研究の意義>

肥満対策の重要性が叫ばれているが、それは働き盛り世代までの話である。高齢者の場合には、痩せが死亡の危険を高める重要な問題であり、その対策に真剣に取り組む必要があることがわかる。また、特に所得が低い男性の高齢者に対して、十分な栄養をとってもらえることができるような施策が必要であると考えられる。

学会発表：尾島俊之、近藤克則、平井寛、村田千代栄．高齢男性における所得等による死亡格差 ～A G E Sプロジェクト～．第18回日本疫学会学術総会，東京，2008年1月25日．

連絡先：尾島俊之（浜松医科大学健康社会医学講座教授）

電話 053-435-2333、FAX 053-435-2341